

横浜市奈良保育園

福祉サービス第三者評価結果報告書



報告日 平成 23 年 3 月 4 日

福祉サービス第三者評価機関
株式会社コモンズ 21 研究所

福祉サービス第三者評価結果報告書

目 次

1. かながわ福祉サービス第三者評価推進機構	
福祉サービス第三者評価結果報告書	1
2. 福祉サービス第三者評価結果報告書	
① 評価結果総括表	6
② 分類毎の評価結果	8
③ 利用者家族アンケート結果の特徴	21
④ 利用者家族アンケートの調査結果	22
⑤ 利用者本人調査結果の特徴	26
⑥ 事業者からの意見	27
3. 当社オリジナル報告書	
① 家族アンケート 各データグラフ	28
② 家族アンケート施設への要望 (非公表)	33
③ 評価結果集計表 (非公表)	37
④ 自己評価／第三者評価 比較票 (非公表)	38～72

横浜市福祉サービス第三者評価 評価結果総括表

事業所名	横浜市奈良保育園
報告書作成日	平成23年
評価機関	コモンズ21研究所

評価方法

自己評価方法 (実施期間:平成22年10月12日～11月15日)	職員一人ひとりが自己評価し、結果を全職員で話し合い、担当、主任、園長でまとめた
評価調査員による評価方法 (実施日:平成22年12月14日、12月22日)	ヒアリング対象者…施設長・主任・保育士・調理員 施設観察… 12月14日、12月22日 書類審査等… 12月14日、12月22日
利用者家族アンケート実施方法 (実施期間:平成22年11月1日～11月15日)	保育園より保護者へ配布。直接調査機関へ郵送にて回収。
利用者本人調査方法 (実施日:22年12月14日)	調査対象者… 本人調査(4歳児…3名、5歳児…3名) 観察(1歳児～5歳児)

評価結果についての講評

<p><園の概要・特徴> 横浜市奈良保育園は横浜市の認可保育園で、昭和50年6月に開園しました。東急こどもの国駅から徒歩12分で、周辺には大型団地もある住宅地の中にあります。近くに児童厚生施設「こどもの国」を始め、公園や田畑がある緑の多い環境です。在籍数60名(定員66名)の小規模園で、一人ひとりの子どもや保護者と全職員が交流する家族のような保育園です。特別保育として、障害児保育や地域の子育て支援を行っています。保育目標「健康な体をつくろう・たくさん遊ぼう・楽しく過ごそう」を日常の保育で実践しています。</p> <p><特に優れている点> 1. 職員主体でユニークな保育環境～園庭づくりを工夫 自主性を育てるための環境づくりに力を入れており、園庭には築山を作り、丸太を置き、ロープブランコ等を設置しています。「面白そう」「やってみたい」と子どもの意欲をわかせる園庭づくりを目指し、職員が自主的に取り組んでいます。 保育室内では、遊びの種類ごとにコーナーを作っています。遊びごとに分けられたおもちゃ箱から自由に玩具を出し入れできるなど、環境設定を工夫しています。 また、子どもの意見やつぶやきを大切にしています。お楽しみ会では、子どもがストーリーを考えた不思議なレストランで不思議な食べ物を食べる「お宝ハンター」を演じています。紐を結んでつなげる遊びから、子どもの発想を取り入れた「レスキューごっこ」に発展させました。握力、腕力、バランス感覚を養う取り組みとなっています。 子どもの意欲を引き出す環境構成や自由な発想を重視し、余裕を持った生活の流れができるよう見通しを立てた指導計画を作り、主体性や創造性を伸ばす取り組みとなっています。</p> <p>2. “かかりつけ保育園”や専属コーディネーターが関わる地域子育て支援 地域子育て支援事業の一環として、登録制の子育て支援の“かかりつけ保育園”(青葉区実施の「子育て応援保育園」)を実施しています。利用者は3歳までの子どもと妊婦も含めた保護者で、開設されて3年目で60名の登録者がいます。 家庭で保育している地域の親子に実家のように気軽に来園してもらい、“かかりつけ保育園”として、子育ての不安解消やリフレッシュに利用されています。遊びや育児のヒントを提案し相談に応じ、子育て情報や親子で過ごせる場の提供をしています。また、無料(1組1回に限る)でふれあい給食を実施し、園児と給食を一緒に食べる体験を通して子どもへの理解を深め、子育てが楽しくなるように支援しています。 青葉区の市立保育園として、今年度は、子育て仲間が気軽に立ち寄り、交流できる場として「ひだまり広場」を開催しています。地域の親子同士の仲間づくりを支援するため、外部から経験豊かな専属コーディネーターを配置し、遊びの提供や継続的な交流を実施しています。育児講座、育児相談、施設開放、交流保育など子育て支援事業を計画的に実施し、年間のデータを分析し次年度の計画や活動に反映させています。</p>

3. 親の代からの結びつきによる盛んな地域交流

設立35年という歴史があり、卒園生の子どもも入園してきています。そのため地域との交流も盛んで、保護者と地域の方が共同で園庭整備に協力しています。近くの工務店の大工さんが、丸太などの遊具やはしごを作ってくれたり、山の土をもらってきて、築山を築いています。田んぼづくりや稲や野菜の栽培では、農家の方の助言で実りを迎えています。魚屋さんが来園し、鮭の解体を実演してくれました。

また、園で緑のカーテンとして栽培したゴーヤを佃煮にして、レンピや種を添えて、近隣に配っています。さらに、給食室から出る生ごみを処理機で堆肥にして近隣に差し上げる等、園から地域への発信もあり、双方向の交流が行われています。

地域防災訓練を、学校、自治会、保育園、地域住民と一緒にしています。地域ケアプラザのお祭りでは、園児の作品を出品したり、デイサービスの高齢者と七夕交流や食事会などでふれあう機会を設けています。親の代から続く地域にある保育園として、あたたかい見守りの中で子どもたちは豊かに育まれています。

<改善を期待したい点>

1. 保護者に向けて理念・方針の理解を深める取り組みを

理念や方針をより具体化した行動指針である保育目標は園内の各所に掲示され、職員や保護者への意識づけをしています。しかしながら、保育課程の内容や理念や方針について、園内掲示やパンフレットへの記載はありません。利用者家族アンケートでも、他の項目に比べて理念や方針への周知が低めです。実際の保育活動では、理念・方針が見事に反映された保育の実践がされています。今後は、保護者に向けて、園独自のアンケート等で基本理念や方針のもとに園運営が行われているということを保護者がどのくらい認識しているか、把握することが望まれます。

2. ボランティア受け入れに対する書類の整備を

ボランティアに対する注意事項、保健衛生、利用者への配慮などがまとめられた「ボランティアのしおり」があり、ボランティアに対して説明がされています。しかしながら、ボランティアの受け入れに対する利用者や職員への基本的な考え方・方針について、十分な説明や資料がありません。受け入れ方針を明記し、職員や利用者に対して、ボランティアの意義や園での役割について周知することが望まれます。

評価機関による評価



3つ: 高い水準にある、2つ: 一定の水準にある、1つ: 改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人(子ども本人)の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童の最善の利益の保証、保護者に信頼される支援、地域の子育て支援、職員相互の啓発と自己研鑽」(要約)という理念を謳い、利用者である子どもや保護者を尊重しています。 ・「子ども一人ひとりに寄り添う保育が実感される」という保護者からの言葉、連携を図りながら地域の子育て支援に取り組む職員の姿、そして何よりも子どもが生き活きと活動する姿から、保育内容が理念や方針に沿った活動となっていることがうかがえます。 ・保育所保育指針の改定を受け、昨年1年間は毎月2回、園内研修を通して職員全員で保育課程の策定に取り組みました。テーマごとにグループをつくり、リーダーを決めて意見を出し合いました。最終的には全員で確認し決定しています。 ・理念や方針をもとに、地域子育て支援の充実・世代間交流など地域の実情を踏まえた取り組みや、周辺の自然環境を活かした保育実践、家庭や地域に食の輪が広がるような食育活動などを計画に盛り込んでいます。 ・子どもに必要なことを説明するときには、保育士の立ち位置や子どもの座り方など落ち着いて聞けるように環境作りをしています。また、年齢に応じて分かりやすく伝え、絵、図、写真など視覚に訴える工夫をしています。 ・子どもの意見やつぶやきを大切にしています。お楽しみ会では、子どもがストーリーを考えた不思議なレストランで不思議な食べ物を食べる「お宝ハンター」を演じています。子どもたちがやりたいこと、演じたいことなどを日々の保育や行事に柔軟に取り入れて計画しています。 ・保護者には入園説明会や年度当初の各クラス懇談会で保育内容について説明し、毎月のねらいは掲示して伝えています。年間のテーマや行事ごとのねらいについてもお便りを配布しています。今後は、保育課程の概要についての説明や掲示をすると、園運営に対する保護者の理解がさらに深まるでしょう。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童面接要項、児童票、児童健康台帳から把握した一人ひとりの子どもの生育暦や配慮点、保護者の希望、さらに短縮保育中も子どもの様子を職員間で共有し、保育に反映させています。 ・1～2歳児については、子どもとの愛着関係を築く大切な時期と捉え、子ども3人に対して1人の主担当保育士を決め、食事介助、オムツの取替え、授乳など、生活面での関わりのなかで愛着関係が築けるように図っています。 ・おしゃぶりやお人形など子どもが家庭で大切にしている心理的拠り所とする物の持ち込みについては、保育園が楽しくなると徐々に持ち込まなくなるため、制限はしていません。 ・乳児については、生活面をもれなく知ることのできる「連絡ノート」を使用しています。記載する際の留意点として、保護者が何を一番知りたいかを考え、その子が今日1日何をしていたかという具体的な活動についてイメージできるように記載しています。幼児については、朝の体温と健康状態を記載する「元気カード」を使い、必要に応じて連絡メモを使っています。 ・子どもの様子や場面を書く「事例ノート」への記入により、その日の保育の振り返りを行い、子どもの姿に視点をあて、かつ見通しをもった保育ができるようにしています。職員会議・ケース会議・乳幼児会議・ミーティングで、園長や他クラス保育士・調理員等から客観的に見たアドバイスを受け、保育内容の見直しを行い、指導計画の作成に活かしています。 ・入園手続き等で親子で来園した子どもの様子については観察していますが、保護者のみが来園する場合もあるため、今後はすべての子どもについて、保護者と一緒にいるときの様子や保護者の対応を観察し、親子のかかわり方、子どもの様子などを記録する仕組みづくりが期待されます。

評価分類

評価の理由(コメント)

I-3 快適な施設環境の確保



・清掃は1日1回を基本にし、汚れたらその都度行うなど、マニュアルや清掃チェック表に基づき適切に行われています。おもちゃ・遊具などは、材質(布、プラスチック)、使われ方、使用者(乳児、幼児)別などに分類し、滅菌消毒液の希釈液で拭く、洗うなど清潔を維持しています。

・各部屋は南と西に面しており、採光は十分です。各室にカーテンが設置され、夏にはゴーヤやぶどう棚のグリーンカーテンが紫外線をよけてくれます。また、西日を遮ることで冷房の使用時間を抑えています。

・保育士が静かな声で話すことによって、子どもも自然と落ち着けるように配慮しています。声や音の大きさが気になる場合はその場で声を掛け合い、職員間でも気を付けています。

・0歳児保育がないため沐浴設備はありませんが、身体を洗うシンクが温水シャワーつきで園内に2箇所、園外に1箇所設置されています。乳児の排便後はシャワーでお尻を洗い、使用後はシンクを消毒しています。

・乳児は1・2歳児混合クラスのため、発達に合わせてロッカーや棚で区切った安全性に配慮した遊びのコーナーを作っています。遊びごとに区切ったコーナーは、遊びを見つけやすく、他の遊びと混乱することなく集中して遊ぶことができます。

・幼児は異年齢で食事や午睡をしたり、朝夕の自由遊びも一緒に楽しんだり、日々自然な関わりをしています。園庭では自由に異年齢で遊べる環境を整え、子どもがのびやかに活動できる場や空間があります。

I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



・1～2歳児までは、クラスの指導計画の他に個別指導計画を作成しています。幼児については、必要と思われる特別支援児には個別指導計画が作成されています。要支援児や配慮を要する子どもについては、通常の月間指導計画に目標や配慮事項を記載しています。

・月例のケース会議やカリキュラム会議で全職員に子どもの様子を報告し、共通認識を持って子どもに関わるようにしています。例えば刺激を少なくするために保育士が話をする際の立ち位置を変える、視覚的に見やすくなるよう整理するなど個々の対応について話し合う機会をもつことで、様々な角度から子どもを捉えられるようにして支援しています。

・子どもの個人記録としては、児童票・健康台帳・歯科健診表・健康手帳・保育経過記録・個人記録(配慮を要する子どもと1～2歳児)があり、決められた書式で整理されています。それら個人情報に関わる書類は、事務所の鍵のかかる書庫に入れ、職員は園長の了解のもとにいつでも閲覧できます。また、各クラスに日中保育と長時間保育との連絡ノートがあり、伝達事項を記録し伝え合っています。

・転勤・転入など職員の異動の際には、保育経過記録のほかに、留意事項も記載し説明と共に引き継ぎをしています。日常的に会議で子ども一人ひとりの報告がされており、職員は個々の子どもの状況を把握しているため、進級時の担任交代の引き継ぎについてもスムーズにできています。

評価分類

評価の理由(コメント)

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



・ケース会議が毎月開かれ、個々のケースについて話し合いをし記録しています。幼児については、要支援児の担当の職員がいます。

・主任は年5回開催の区の「障害児研修」に参加し、事例検討でいろいろなケースを学んでいます。主担当保育士も研修を受けています。自主研修としてほとんどの職員が年2回の障害児関係の研修に参加するなど障害児や配慮を要する子どもについての研修に積極的に参加しています。それぞれの研修終了後には、報告書を提出すると共に他の職員に説明を行い、最新情報を共有し、職員全体のスキルアップを図っています。

・子どもが保育室でみんなと過ごすことが辛い時には、事務室で好きな遊びができるような環境を整え、落ち着いてからクラスに戻れるようにしています。障害児にも他の子どもにもわかりやすいように、できるだけ絵や文字を使って説明し、わかりやすい保育をしています。現在は対象者がいないので、バリアフリーではありませんが、整備が必要な子どもの入所決定時には環境を整備するという取り決めが横浜市とできています。

・毎日、食事に関わる職員全員でミーティングを行い、翌日の献立とアレルギー対応の食品について確認し、記録しています。当日の朝、記録を再確認し、調理員・保育士が口頭で再確認してから調理・保育をスタートしています。

・保護者にアレルギー除去食の味を知ってもらえるよう、行事等の際などにアレルギー除去食の手作りおやつを提供しています。

・文化・習慣・肌の違いなどについて、相手のことを認めながら、いろいろな人がいることを保育の中で子どもにわかりやすく伝えていきます。ネックレスや足首飾りはお守りであることを説明するなどし、文化や生活習慣の違いを他の子どもたちが理解できるように説明しています。

I-6 苦情解決体制



・送迎時には、「元気カード」を保護者から保育士が直接受け取って声をかけるなど、話しやすい雰囲気作りに配慮しています。

・保護者の表情や様子などに注意して声かけをし、必要に応じて個別の対応をしています。また、直接言いづらいときのために、乳児は連絡帳、幼児は各クラスに連絡メモとポストを用意し保護者が利用できるようにしています。行事の際には自由に意見を述べる欄を設けたアンケートを無記名でお願いし、アンケート結果を全保護者に配布しています。廊下にはご意見受付箱を設置し、無記名で苦情を伝えられるようにしています。

・第三者委員は地域の民生委員でもあり、常に話のできる関係をつくっており、近隣からのクレーム等の相談にも乗ってもらっています。

・保護者から寄せられた声は小さなことでも苦情と受け止め、園長に報告し迅速に対応するとともに、全体に報告して周知し改善に努めています。必要に応じて、区の担当者や保健師、地域療育センター、児童相談所と連携をとっています。

・「散歩の際の子どもの声がうるさい」「保護者同士の関係をつくりたい」など要望や苦情の解決策が会議等を通じて職員に周知されています。第三者委員とは定期的に連絡を取り、必要なときは話し合いに同席してもらおうとしています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由(コメント)
<p data-bbox="188 219 459 246">Ⅱ-1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="611 241 1404 324">・人形は壁掛けポシェットにきちんと整理され、絵本や積み木などもコーナーが作られ、子どもたちは自分でおもちゃを出し入れし、好きな遊びに夢中になっています。子どもが自由に遊びこめる環境が大切にされています。 <li data-bbox="611 353 1404 488">・園庭には、築山、ロープ、段差等が作られ、子どもはしっかりとロープをつかみ、山を登ったり駆け下りたりして全身を使って元気いっぱいに遊んでいます。小さな子ども達は保育士に見守られながら、自然にできた水たまりでペットボトルに夢中で水をくんでいます。遊びの意欲を引き出していることがうかがわれます。 <li data-bbox="611 517 1404 568">・紐を結んでつなげる遊びから、子どもの発想を取り入れた「レスキューごっこ」に発展させました。握力、腕力、バランス感覚を養う取り組みとなっています。 <li data-bbox="611 598 1404 680">・乳児には日常からわらべ歌や童謡を取り入れて、午睡前のトイレ誘導などを子どもが楽しみながら行える工夫があります。また、段ボール製の和太鼓や紙ばちで好きな時間に叩けるように配慮しています。 <li data-bbox="611 710 1404 792">・園内には、ぶどう棚や柿の木があります。季節を感じながらみんなで収穫をして食べる機会をもっています。田んぼや畑では米や野菜を育てています。土作りから収穫までを全園児が体験しています。 <li data-bbox="611 822 1404 956">・異年齢保育計画を計画的に行っています。3、4、5歳児は、「おうちごっこ」と称してグループを作っています。グループの名前もみんなで相談して決め、野菜を育てるなど年間を通してのグループ活動を行っています。年長児クラスには化粧品をそろえた鏡台があり、乳児を椅子に座らせてお化粧してあげるなど家庭的なかかわりをもって遊んでいます。 <li data-bbox="611 985 1404 1090">・専任講師や保育士による和太鼓指導、リズム体操では全身運動でリズム感や運動神経を養うなど、音に合わせて体を動かすルールを学んでいます。散歩の途中で摘んだつゆ草や野菜の皮を利用した草木染で自由に模様を描いたTシャツを作成し、夏祭りに着るなどの活動も取り入れています。 <li data-bbox="611 1120 1404 1202">・散歩の途中では近くの交番のお巡りさんとあいさつを交わしています。運動会や夏祭りでは、「行事のお誘い」を配るなどの交流を図り、日頃からコミュニケーションをとるようにしています。 <li data-bbox="611 1232 1404 1314">・子ども同士の喧嘩では、じっくり話ができるようにベンチコーナーに座って子ども同士の話聞いています。謝ることや譲ることを強制せず、自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを考えられるようにじっくりと話して援助しています。 <li data-bbox="611 1344 1404 1426">・散歩では起伏のある長い距離を歩き、園では経験できないような運動を取り入れています。また、築山を削って段差をつけ、運動能力を高める工夫をしています。 <li data-bbox="611 1456 1404 1538">・雨上がりの園庭では水溜りを上手によけながら元気に走り回り、タイヤ転がしや重ねたタイヤをジャンプするなど、体を動かして手足の筋力をつける遊びを多く取り入れています。

II-1 保育内容[生活]



・食事が進まない子どもには少なめに盛り付けるなどの工夫をしています。「先生、見ててね」と言いながら食べる子どもに、「大きな～あれ」と優しく声をかけています。

・できるだけ温かい食事が提供できるように、子ども達の様子を見ながら配膳しています。魚料理の時は、アルミホイルで魚の形の器を手作りして盛り付けています。また、調理員に子ども達が声をかけるなど、作り手が見える関係作りを心がけています。

・「今日の魚はさわらだよ」「トマトの匂いどうかな」「ブロッコリー、おいしいよ」など声をかけて関心を持たせています。保育士も一緒に食べることで楽しい雰囲気作りを心がけています。

・魚屋さんに子どもの前で鮭をさばいてもらい、保育室でホットプレートで焼いて食べています。また、育てたさつま芋を焼き芋にするなど季節の食材を使った食事作りに配慮をしています。そら豆や冬瓜など珍しい食材は調理する前に子ども達に見せ、食材に対する関心や興味が広がるように工夫しています。

・食事の途中で寝てしまう子どもには無理に食べさせることはせず、目が覚めて食べたくなった時に改めて調理して食べさせるようにしています。

・調理員が毎日、給食時間に見回りをしています。ロールパンにバターをつけないで食べる子ども、味付けが少し濃い目を好む子どもなど、一人ひとりの好き嫌いや量を把握し、次回の調理に活かしています。

・「秋刀魚の食べ方」として、骨のある魚の食べ方が絵で詳しく説明され保育室に掲示されています。調理室からのお手紙には旬の食べ物や食材の説明があり、食に対する関心を促しています。

・保育参観の日には、給食の試食会が行われています。子ども達が育てて収穫した野菜で作ったオクラの味噌汁やゴーヤのお好み焼きなどを提供し、食育に対する園の取り組みを紹介しています。

・カーテンや布団の位置を変えるなどの工夫で、ゆっくり入眠出来る環境づくりがされています。眠れない子どもには絵本を読んだり、体をトントンするなど安心して眠れるように配慮がされています。夜、なかなか寝付けない子どもには早めに声をかけ、昼寝の時間を短くするよう個別に対応しています。

・年長児の午睡は個人の体調に合わせて無理なく行っています。眠れない子どもは卒園制作に取り組むなど個別に対応しています。

・個々の排泄のリズムを捉えてトイレ誘導をしたり、一人で排泄できたことをほめたりしながら自立を促しています。おもらしをした時は、他の子どもに気付かれないように声かけをしています。午睡前は歌に合わせてゆっくりとトイレ誘導をしています。トイレトレーニングについては、連絡ノートを使って保護者と連絡を取りながら個別に対応しています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



・子どもの健康管理はマニュアルに沿って行われています。入園時の母子健康手帳、既往歴成育の記録を参考に健康台帳が作成され、事務室に保管されています。入園後にかかった感染症等の疾病は、その都度書き加えられます。園児たちの日々の健康状態については保護者から口頭で聞き、乳児は「連絡帳」で、幼児は保護者が毎朝子どもの体温等を記録する「元気カード」で確認しています。

・歯磨き指導の日は歯科医が各クラスを巡回し、年長児には赤染めやブラッシング指導を行い、歯磨きの大切さを伝えています。乳児は保育士が膝に寝かせて磨いています。嫌がる子どもには無理強いせずうがいで様子を見るなど対策をとっています。幼児は椅子に座って自分で磨きますが、保育士が確認をして磨き直し、歯磨きの大切さを伝えています。

・登園禁止基準に関してのマニュアルがあり、入園時に保護者に説明し周知しています。感染症に関しては、早見表、対策の現状経路と予防対策等がマニュアル化されています。発症した場合、個別の家庭に注意を喚起することや、健康指導として予防接種を勧めています。

・感染症が発生した時は、掲示して知らせています。保健便り「すくすく」では、季節ごとに流行しやすい感染症や予防の仕方などについては、タイムリーに情報提供しています。

評価分類

評価の理由(コメント)

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理[衛生管理]



・衛生管理マニュアルがあり、保育室内では、室内空気汚染事故対応マニュアルに従い、保育室内の空気の清浄が維持されています。保育環境に関しては、おもちゃ、手指の消毒、砂場の衛生管理などマニュアルに沿って安全に整えられています。手洗いは、乳児は液体せっけん、幼児は固形石鹸と年齢に合わせて用意され、保護者、子ども、職員も手洗いをしてから入室しています。うがいなどの衛生習慣も、病気に負けない身体づくりのためにしっかりと実施されています。

・清掃は、マニュアルに沿って毎日行われています。乳児のおもちゃの玩具は毎日消毒液で拭き、日光消毒して清潔を保っています。子どもが鼻を噛んだ時は、感染予防のためにふたの付いたゴミ箱に捨て、その都度手洗いをします。汚物や嘔吐物は手袋・マスクを着用して処理するなど、感染予防に努めています。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理[安全管理]



・安全管理マニュアルがあり、マニュアルに沿った園内の固定遊具の点検や室内の安全点検が実施されています。異常があれば修理し、すぐに修理できないものについては保育士に伝え、安全に保育できる方法を考えて対応しています。

・年に一回、保護者による引き取り訓練を行い、連絡体制を確認しています。また、防災訓練は小学校と連携をとって一緒に行い、実際の場面で慌てないように避難経路、場所の確認をしています。

・職員全員が救命救急法を受講し、AEDの研修も受けています。消防署の方に来園してもらい、消火器の使い方なども指導してもらっています。

・大きな事故を防ぐために、ヒヤリハットの段階でファイルに記入しています。事故や怪我は必ずその日に園長に報告し、すぐに安全対策がとられています。また、毎日のミーティングでは怪我の報告をし、事例から配慮事項や改善点を職員全員で学んでいます。

・不審者情報は、警察や防犯ネットワークから発信されています。防犯チェックマニュアルがあり、全職員に周知されています。交番とは、日ごろの挨拶や園の行事に招待するなどの交流をもっており、防犯対策につながっています。

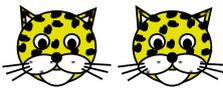
評価分類	評価の理由(コメント)
<p>II-3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権研修が年6回青葉区で行われています。また、園内では年1回の研修を行い、職員が子どもに罰を与えたり自尊心を傷つけることのないよう、子どもの人格尊重について徹底を図っています。 ・注意を与える時には、本人だけに聞こえる程度の声で伝えるようにしています。しっかり向き合って話をする必要がある時は、部屋から出て他児に見えないところで話しています。 ・職員研修では、ロールプレイを行い、常に子どもの目線に立って保育するよう心がけています。子どもの思いに気付くようにし、子どもの気持ちや発言を受け止めた上で次の行動を促したり、援助したりしています。 ・棚を使って部屋を区切ることにより、死角を作らないように配慮しながら、子どもの目の高さでは周りを意識せずに遊べるようにしています。 ・個人情報取り扱いについては、入園説明会や懇談会で保護者に説明し、了解を得ています。写真やビデオなど個人が特定されるものを掲載する場合には、年度当初及び事前にも保護者の了承を得ています。連絡帳の受け渡しに間違いがないよう、動物や花などの個人マークを大きく貼り、他人に見られないようクリップで綴じています。クリップを返却してもらうことで、ノートが渡ったかを職員が確認しています。配布物は個人の封筒に入れ、保護者への手渡しを原則とし、誰にいつ渡したかの記録をとっています。 ・気になる子どもについては、着替えの時などに全身の状態を確認し、園長への報告や記録をしています。注意を要する子どもの言葉や行動などは、小さなことでも園長に報告・相談し、個人で判断しません。職員間で情報を共有し、解決に向けてできることを探して対応しています。保護者との面談は一人で行わず、園長等複数の職員で行っています。 ・ジェンダーフリー等の人権に関する研修に年一回は参加し、研修報告をすることで全職員が振り返りをしています。
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの保護者懇談会では年間目標について説明し、行事の前後にはテーマや目標を各クラスだよりを通して説明しています。保育目標、クラス目標は、玄関、保育室、保護者が出入りする廊下などに分かりやすい言葉で掲示してあります。 ・乳児クラスは連絡ノート、幼児は送迎の際に口頭で、保護者にその日の子どもの状態やエピソードなどを伝えています。幼児クラスの掲示板に「今日のごと」を貼り出し、一日の活動やクラスの様子を伝え、子ども達の成長を保護者にも理解できるようにしています。 ・お散歩マップは、遊具、子どもの遊ぶ姿の写真入りで作成し、ファイリングされていつでも見られるようになっています。 ・餅つき、夏祭りなどの保護者との共催行事では、準備から開催当日まで保護者と協力して進めます。餅つきでは、子ども達が畑で育てた野菜を使った豚汁や大根おろしなどと一緒に食べて楽しみながら交流を深めています。 ・保護者会と連携をとり、路上駐車禁止の取り組みや近所へのあいさつなどを行い、地域との良好な関係作りを図っています。また、保護者会で園庭の遊具の修理を行ってもらうなど、子ども達の環境作りを通してコミュニケーションを深めています。 ・保護者に対して懇談会や園便りなどで、折に触れて保育内容の説明はなされていますが、保育方針について保護者が理解しているかどうかについてのアンケートや聞き取りは実施されていません。利用者家族アンケートでも保育理念や方針についての周知度が他の項目に比べて低いことから、今後の取り組みに期待します。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭や室内開放、交流保育、ふれあい給食等の地域の子育て支援を行う中で、参加者に積極的に声をかけ、何に困っているかなどを聞きとりながら、相談や要望に応じています。参加者にアンケートを記入してもらい、要望に対しては速やかに対応しています。 ・青葉区幼保小教育連携事業や近隣の保育園など関係機関と、地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供について検討をしています。 ・平成22年度子育て支援事業は、園庭開放など8種類の事業を実施し、ほぼ毎日活動が展開されています。毎月、毎日のミーティングでも日常的に支援事業について職員間で話し合いがもたれています。子育て支援の行事ごとに記録・反省を行い、次回に活かしています。年度末には総合的な反省会を開き、次年度の支援計画や活動内容を決めています。 ・地域での子育てを支援するサービスとして、園庭開放、交流保育、誕生会、お話し会、ふれあい給食、「青空お出かけパーク」、育児講座、保育園広場、「ひだまり広場」を実施しています。 ・子育てや保育に関する講習・研修会としては、育児講座を開催しています。また、ふれあい給食では、園児と一緒に食べながら、年齢に合った食事の仕方や調理方法についての情報提供や相談に応じています。地域ケアプラザの子育て支援行事では保育士が主体的に関わって遊び方を伝え、親の育児力を高めるための支援を行っています。
<p>Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業の予定表を年に数回参加者に配布したり、園舎周りや連携機関に掲示のほか、地区センター、地域ケアプラザにも掲示しています。園に来られない場合は郵送での対応もしています。また、自治会にも回覧しています。区役所でも配布し、広報紙にも掲載しています。 ・育児相談日は、毎週水曜日の9:30~12:00で設定していますが、日常の活動の中で自然に相談に応じることが多い結果になっています。 ・福祉保健センター、児童相談所、地域療育センター、区生活保護課など連携機関を一覧表として、職員が共有できるようにしています。連携機関との連絡は、園長・主任が行っています。 ・連携機関の専門家には、発達障害の状況や集団の中での子どもの姿、子育てが楽しくない母親などの精神状況について相談や観察をお願いするなど日常的な連携があります。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>Ⅳ-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会やお楽しみ会、保護者と共催で行う夏祭りやお餅つきなどに、地域住民や第三者委員、小学校、地域ケアプラザ、地区センターの方々を招待しています。 ・地域防災訓練を学校、自治会、保育園、地域住民と一緒にしています。地域ケアプラザのお祭りでは園児の作品を出品したり、年間計画で高齢者と交流する場を設けたり、地域ケアプラザの行事(保育園ひろば)を年3回保育士が計画して行っています。自治会のお祭りや防災訓練にも参加しています。 ・小学校の2年生と年長児との交流を行っています。学校見学や給食体験を通して小学校の生活を見る機会となっています。小学校とは、お買い物ごっこ、ゲームなど年2回の交流が図られています。 ・園庭・室内開放の際に、絵本の貸出を行っています。近隣の病院にCDやCDプレイヤーを貸したこともあります。 ・地域の子育て中の親子を毎月のお誕生会に招待して一緒に誕生児を祝い、記念に身長・体重・手形を入れた誕生カードのプレゼントをしています。地域で活動している和太鼓集団に毎月来てもらい、和太鼓を通じた音楽交流をしています。 ・地区センターの本コーナーやこどもの国の動物園・植物園・アスレチックコーナーなど、地域の文化・レクリエーション施設等を利用しています。 ・散歩で地域の方と接する時は保育士が率先して挨拶することで、子どもも積極的に挨拶・声かけをしています。施設開放では、園児も一緒に場で遊び、地域の親子と園児がごく自然に関わっています。魚屋さんに来園してもらい、ふれあいながら鮭の解体を美演してもらっています。 ・地域ケアプラザを訪問し、七夕交流や歌や遊び、食事などのふれあい交流を行い、デイサービスの高齢者とふれあう機会を設けています。三世代交流の場を設け、伝承遊びを教えてもらっています。小学校の「秋のわくわくフェスティバル」や自治会主催の「夏祭り」「奈良川の野鳥を見る会」や「虫の観察会」などのポスターを掲示し、参加できることを子どもに話しています。
<p>Ⅳ-2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・青葉区の公立保育園紹介のホームページで、園目標・保育姿勢・クラス編成について紹介しています。園のパンフレットを作成し、自由に手に取れるようにしています。区役所に子育て支援の年間予定や育児講座などの行事のチラシを置いています。 ・情報誌『タウンページ』では、地域の子育て中の方が、かかりつけ医にかかるように気軽に子育ての悩みを相談でき、子どもを園児と一緒に遊ばせることができる地域の子育ての専門機関として紹介され、「かかりつけ保育園」、園庭開放、交流保育などの取り組みも掲載されました。 ・横浜市のホームページ「ヨコハマはびねすぽっと」に、保育所の概要、保育方針、年間の主な行事、独自の保育サービスと保育料以外の保護者負担、保護者との約束事等を掲載しています。 ・利用希望者の問い合わせに対して、見学担当を決めています。また、どの職員でも対応できるように、保育時間や保育料に関するQ&Aのついた「保育所入所のしおり」を電話のそばに置き、いつでも受け答えができるようにしています。 ・園の玄関、地区センター、地域ケアプラザ、区役所に子育て支援のパンフレットを置き、園庭開放、イベント、育児相談などの支援内容やスケジュールを掲載し、子育て中の人に情報提供をしています。 ・見学希望や行事への参加は電話予約を基本としており、保育に支障がないように計画的に要望に応えながら時間設定をしています。見学希望については、園庭開放など保育がよく見える時間帯を設定しています。

評価分類	評価の理由(コメント)
<p data-bbox="181 174 603 235">IV-3 実習・ボランティアの受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティアのしおり」があり、注意事項、保健衛生、利用者への配慮の内容で説明がされています。 ・ボランティア受け入れの担当は主任で、「実習・体験ボランティア参加確認簿」「体験学習・ボランティア受け入れ簿」の整備がされています。 ・ボランティア活動の最終日にアンケートで感想を書いてもらい、「対応の仕方がわからなかったが、子どもから声をかけてもらってうれしかった」等のが意見が寄せられています。 ・「実習生のしおり」を作成し、健康管理、保育方針や子どもと接する際の禁止事項、守秘義務について園長もしくは主任が事前に説明しています。 ・「実習生受け入れ留意点」を作成し、基本的な考え方・方針が理解されるよう説明しています。 ・学校側の意向と本人の希望、園のスケジュール等を勘案し、実習生本人が保育実習日誌の中でプログラムを設定しています。実習内容についての指導は、毎日の実習日誌に加え、直接質問を受け、説明やアドバイスをして翌日に活かせるようにしています。 ・実習の最終日には反省会を設け、関わった保育士が全員参加してアドバイスをしています。実習生からは、「先生たちが穏やかに子どもに接している」「注意するときにはそばに行き、本人に寄り添って伝えている」等の感想が述べられています。 ・ボランティアの受け入れに当たり、職員や子ども、保護者に対して、基本的な考え方・方針についての十分な説明や資料等の作成はされていません。今後は、子どもたちに対してもあらかじめ受け入れについて説明することが望まれます。

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由(コメント)
<p data-bbox="181 1169 603 1198">V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員は横浜市が採用するため、園としては、非常勤職員の採用をしています。面接では、有資格者であるか、人間として信頼できるか、理念・方針について前向きに取り組む意欲があるかななどを重視しています。主任級職員が異動しても園の運営上支障がないように次の職員の育成を心がけ、職務上の役割を与え、アドバイスをしています。 ・「こんなことをしてみたい」「こんな保育園だったらいいな」と職員それぞれが描く「夢プラン」を全職員が作成しています。自己申告書を活用し、「夢プラン」のもとに各自の目標を定めて行動に移し、年2回、達成度の評価を行っています。 ・園長、主任や外部講師による年間10回にわたる園内研修が実施されています。研修内容については、「個人情報の取り扱いやコンプライアンスについて」等の運営・管理の基本的内容を始めとし、職員がやりたいことを出し合って計画し、興味を深めることができるようにしています。「水田体験」「草花遊び」など園独自の取り組みが見られます。職員・非常勤共に参加できるよう夜時間を活用するなどの工夫をしています。 ・園長は一人ひとりのキャリアを踏まえて研修の成果を評価し、次回に受講してもらいたい研修について面談時に職員に伝えています。 ・散歩先での安全点検についてデータを取り、公園マップに活かしていくなど、研修で得た知識を職場で活かしています。 ・非常勤職員の指導については、各クラスの常勤職員が担当しています。午睡時に子どもの様子を伝えあい、年間を通して同じ勉強会に通う中でコミュニケーションを図っています。 ・非常勤職員はキャリアのある人も多く、アンケートからも利用者家族から信頼を得ていることがうかがえますが、今後は、非常勤職員の指導体制を見直し、業務やマニュアルの整備・指導なども含めて新たな仕組みを整えることにより、職員同様の保育力の向上が図られることが期待されます。

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議を保育の見直しの場とし、優れた点・問題点を出し合うことで課題や目標を見つけています。課題については、翌月確認や見直しをしています。保育日誌の反省欄に、その日の保育で気づいた点、対応がよくなかった点などを記載し、毎日振り返りをし、次の保育に活かしています。 ・保育室内の午睡や食事の場所の明るさ、温度、日よけ等の環境構成について学びあっており、年度初めと秋の年2回、各クラスを巡回して保育環境を観察し、工夫事例を出しあい、子どもの成長発達に合わせて変化させる等の工夫をしています。 ・地域療育センターからは、支援を必要とする子どもの保育に関して指導、助言を受けて保育に活かしています。また、職員全員が参加できるよう夜間研修「草花遊び」に講師を招き、自主勉強会を行っています。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は園長より、「経験年数等によって期待される役割についての計画表」についての説明を受け、自己申告書を作成し、年3回園長との面談を実施しています。 ・年度初めに一人ひとりの役割分担・行事担当などの表を渡して、自分の仕事を分かりやすくし、意欲的に取り組めるようにしています。それぞれの業務についての最終的な結果責任は園長がとる体制になっていることは、園長・職員双方のヒアリングにより確認されました。 ・個別の面接や職員満足度調査により、職員の業務の進捗状況や満足度・要望などを把握しています。職員が得意分野を発揮できるような仕事の割り振りに配慮し、認められることでやりがいや達成感が得られるようにしています。 ・日常の会議で、指導計画、行事、保育内容等が目標に沿っているかどうかの反省や見直しを行い、次回に活かせるような仕組みは良好に機能しています。しかしながら、園運営全体を定期的に見直し、業務改善の仕組みにまでは至っていません。今後は、アンケートなどをもとに、職員間で業務改善について討議するとさらによいでしょう。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス(法令遵守)についての園内研修を行い、理解を深めています。横浜市個人情報の保護に関する条例、横浜市職員倫理規程に基づき職務を行っています。 ・他園で事故が発生したときには、迅速に職員に情報を提供して、園での事故予防に努めています。問題が起きた時やヒヤリハットの時点で臨時に会議を開き、問題点を探すと共に基本を振り返って確認しています。季節の贈答品等を受け取るなどの不適切な対応をしないよう、定期的に注意を喚起しています。 ・ヨコハマはG30政策に沿って、ゴミの分別を徹底しています。子どもにも理解できるように、ごみ箱に紙・プラ・燃えるゴミのマスコットを描いて、ごみの分別を促しています。 ・窓際にゴーヤやブドウなどのみどりのカーテンを育てることで、冷房の使用を控えています。また、水道の蛇口のところに水の出し方のよい例・悪い例をイラスト付きで掲示し、節水を促しています。エコキャップを集めてワクチンの寄付活動を行っており、一年間の集計結果を保護者にも伝えています。いらなくなったYシャツを集めて年長のハッピーに作り直し、リサイクルすることの大切さを子どもたちに伝えています。 ・「奈良保育園の職員が、環境を守るために取り組むこと」「有意義な環境側面を実行していくこと」「子どもたちに物を大切にすることを育てましよう」など、環境への取り組みを明文化し、園内の随所に掲示しています。

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・月毎のクラス目標をもとに週案を作成し、全クラスの週のねらいや予定を把握することができるようになっています。 ・園長、主任は、各職員の園目標や保育姿勢についての理解、実践の状況について、年度当初や面接の際に確認しています。 ・重要な報告や相談については、保護者会の役員会に園長が参加して伝えているほか、年度初めや年度末の保護者会の反省会にもできるだけ園長や保育士が参加して意思疎通に努めています。 ・第三者評価受審に向けて年間を通して、乳児代表・幼児代表・調理代表・福祉員代表・主任でプロジェクトを組み、最終的には全職員が関わる形で取り組みました。 ・スーパーバイズできる主任クラスの育成に関しては、市の人材育成プランによって計画され、当園では2名が参加しています。主任は、保育士の子どもへの接し方や保育業務の観察を日々行うことにより、各保育士の状況把握に努めています。また、指導計画や週案の内容を確認することにより、各保育士の総合的な保育能力(資質・力量)を把握し、的確な助言・指導に努めています。 ・主任は積極的に職員とのコミュニケーションを図り、日常的に職員の相談に乗り、良好な人間関係を築き、連携して業務に臨んでいます。また、園長を補佐し、園長不在時には業務を代行させるなど、スーパーバイザーの養成にも努めています。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、横浜市こども青少年局、青葉区各種園長会、全国保育協会等から、事業運営に関するさまざまな情報を収集し分析に努めています。 ・要支援の子どもや保護者への取り組み、地域子育て支援、長時間保育など、さらに努力を要するものに関しては、会議やミーティングにおいて職員の共有化を図り、保育サービスの向上に努めています。 ・中長期計画は、市立保育園として横浜市及び青葉区の計画に沿って目標実現に努めています。 ・横浜市次世代育成支援行動計画「かがやけ横浜こども青少年プラン」や青葉区の区政運営方針をもとに運営しています。今後の保育園のあり方をテーマに、近隣の保育園・幼稚園との顔の見える関係・ネットワークの構築という事業の方向性を示し、運営やプロセスの新たな仕組みを検討しています。家庭における育児力の低下、虐待問題、待機児童等、具体的な支援のあり方について職員と話し合い取り組んでいます。 ・次代の施設運営に備え、幹部職員は計画的に後継者を育成し、必要な研修会に積極的に参加することを推進しています。また、研修計画は職員人材育成の視点を大切にしています。 ・元保育園長、大学教授、県のくらし安全指導員、消防署、地域療育センターの児童指導員、カウンセラーなど各分野における専門家の意見を取り入れています。

利用者家族アンケート

結果の特徴

利用者家族アンケート(横浜市奈良保育園)

保護者アンケート 実施:平成22年11月1日～11月11日まで実施
配布数55通 回収通39通 回収率70.9%

特徴

「施設の基本理念や基本方針について」は、74.4%の保護者が「よく知っている」「まあ知っている」と答えています。
「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者のうち、96.7%の保護者が、「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えており、「どちらとも言えない」と答えた保護者は3.3%でした。

「日常の保育内容について」

「遊びについて」

「クラスの活動や遊びについて」は、「満足」「どちらかといえば満足」の合計が94.9%という満足度でした。「遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているか」については同89.9%、「遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組み」については同92.3%でした。また、「子どもが戶外遊びを十分しているか」については、「満足」「どちらかといえば満足」の合計が100%という高い満足度となっています。「園のおもちゃや教材」については、「満足」「どちらかといえば満足」の合計が94.8%となっており、「先生たちが手作りしたり工夫してくれてありがたい」「もう少し予算をとってほしい」との意見がありました。

「生活について」

「給食の献立内容」については、「満足」「どちらかといえば満足」の合計が94.8%、「お子さんが給食を楽しんでいるか」については、同94.9%といずれも高い満足度となっていますが、「主食も提供してほしい」「おやつは手作りのものを増やしてほしい」などの意見もありました。「お子さんの体調への気配りについて」「昼寝や休息がお子さんの状況に応じて対応されているかなど」「基本的な生活習慣の自立に向けての取り組み」については、「満足」「どちらかといえば満足」の合計についても、それぞれ87.2%、89.8%、97.4%といずれも高い満足度となっています。

「保育園の快適さや安全対策について」

「施設設備」については、「満足」(10.3%)、「どちらかといえば満足」(51.3%)の合計が61.6%で、「どちらかといえば不満」「不満」の合計が32.3%と、個別の設問では最も不満度が高い項目となっており、「老朽化しているので災害時に心配がある」などの意見がありました。「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」については、「満足」「どちらかといえば満足」の合計が74.3%で、「不審者の侵入訓練をしているのか」「いざという時の対策が心配である」との声がありました。

「園と保護者との連携・交流について」

「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会」について「満足」と答えた保護者は38.5%で、「送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換」について「満足」と答えた保護者は30.8%となっており、他の項目と比較すると、やや満足度の低い結果となっています。「内容によっては、連絡ノートだけでなく、口頭でも伝えてほしい」などの意見もありました。「園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供」については、94.9%の保護者が「満足」「どちらかといえば満足」と答えています。

「職員の対応について」

「お子さんが大切にされているか」「保育園生活を楽しくしているか」については、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた保護者がそれぞれ92.3%、94.9%といずれも高い満足度となっています。

総合満足度は、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせると92.3%でした。

自由意見としては、

「園舎がきれいに保たれており、好感が持てる」「担任の先生やほかのクラスの先生までもが、子ども達の名前や性格を覚えていてアットホームな雰囲気があります」「子どもが毎日楽しく通園しています」「小さな園ですが、子ども一人ひとりに目が行き届いたとても良い園です」「自然を大切にしており、毎日いろいろな刺激を受けて成長する我が子を感じ取れます」「先生たちにはいつも丁寧に対応していただけるので満足しています」と多くの意見が寄せられています。要望としては、耐震補強工事、豪雨の時の安全対策、開所時間の延長、送迎用の駐車場の問題等が複数寄せられています。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	28.2%	46.2%	7.7%	15.4%	2.6%	0.0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への共感	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	80.0%	16.7%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
a 見学の受け入れについては	61.5%	28.2%	0.0%	0.0%	10.3%	0.0%
	その他：園庭開放には行っていたが見学していない。特に見学しなかった。					
b 入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	59.0%	35.9%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他：					
c 園の目標や方針についての説明には	43.6%	51.3%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%
	その他：説明等は特になかった。					
d 入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	64.1%	25.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%
	その他：区の面接だったので特になかった。					
e 保育園での1日の過ごし方についての説明には	53.8%	43.6%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他：					
f 費用やきまりに関する説明については（入園後に食い違いがなかったかを含めて）	46.2%	46.2%	0.0%	2.6%	5.1%	0.0%
	その他：覚えていない。					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
a 年間の保育や行事についての説明には	51.3%	43.6%	2.6%	2.6%	0.0%	0.0%
	その他：平日に行事をやっても出席できない。					
b 年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	33.3%	61.5%	2.6%	0.0%	2.6%	0.0%
	その他：先生たちはよくやっているが、市からの予算が少ない。					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
a	51.3%	43.6%	2.6%	0.0%	2.6%	0.0%
	クラスでの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)					
	その他:					
b	79.5%	20.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	子どもが戸外遊びを十分しているかについては					
	その他:					
c	53.8%	41.0%	0.0%	2.6%	2.6%	0.0%
	園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)					
	その他: もう少し予算をとってほしい。先生たちが手作りしたり工夫してくれてありがたい。					
d	79.5%	17.9%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%
	自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については					
	その他:					
e	66.7%	23.1%	7.7%	0.0%	2.6%	0.0%
	遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては					
	その他:					
f	64.1%	28.2%	5.1%	0.0%	2.6%	0.0%
	遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては					
	その他: わからない。					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
g	69.2%	25.6%	2.6%	2.6%	0.0%	0.0%
	給食の献立内容については					
	その他: 主食も提供してほしい。					
h	71.8%	23.1%	2.6%	2.6%	0.0%	0.0%
	お子さんが給食を楽しんでいるかについては					
	その他: おやつは手作りのものを増やしてほしい。					
i	69.2%	28.2%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては					
	その他:					
j	59.0%	30.8%	2.6%	2.6%	5.1%	0.0%
	昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては					
	その他: 大きくなると昼寝はいらないのではないかと思う。					
k	64.1%	20.5%	5.1%	0.0%	10.3%	0.0%
	おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては					
	その他: 入園時にはずれていたもので、わからない。					
l	56.4%	30.8%	10.3%	0.0%	0.0%	2.6%
	お子さんの体調への気配りについては					
	その他:					
m	61.5%	17.9%	7.7%	2.6%	7.7%	2.6%
	保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には					
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
a 施設設備については	10.3%	51.3%	17.9%	15.4%	2.6%	2.6%
	その他:設備については満足しているが老朽化しているので災害時の心配がある。					
b お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	46.2%	38.5%	7.7%	5.1%	0.0%	2.6%
	その他:					
c 外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	33.3%	41.0%	12.8%	5.1%	5.1%	2.6%
	その他:不審者侵入訓練等しているか、いざという時の道具を持っているか不明。					
d 感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	53.8%	30.8%	10.3%	0.0%	2.6%	2.6%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
a 保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	38.5%	46.2%	10.3%	0.0%	2.6%	2.6%
	その他:					
b 園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	51.3%	43.6%	2.6%	0.0%	0.0%	2.6%
	その他:					
c 園の行事の開催日や時間帯への配慮については	46.2%	43.6%	7.7%	0.0%	0.0%	2.6%
	その他:					
d 送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	30.8%	46.2%	7.7%	10.3%	2.6%	2.6%
	その他:					
e お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	43.6%	43.6%	5.1%	0.0%	5.1%	2.6%
	その他:連絡網より、園からのメール配信が良いと思う。					
f 保護者からの相談事への対応には	48.7%	35.9%	7.7%	5.1%	0.0%	2.6%
	その他:					
g 開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	43.6%	25.6%	12.8%	7.7%	10.3%	0.0%
	その他: 6時半以降も対応してほしい。					

問7 職員の対応について

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
a	あなたのお子さんが大切にされているかについては	56.4%	35.9%	0.0%	5.1%	2.6%	0.0%
	その他:						
b	あなたのお子さんが保育園生活を楽しまれているかについては	59.0%	35.9%	0.0%	5.1%	0.0%	0.0%
	その他:						
c	アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	67.6%	23.5%	0.0%	5.9%	0.0%	2.9%
	その他: どういう配慮をしているか知らない。						
d	話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	66.7%	20.5%	10.3%	2.6%	0.0%	0.0%
	その他:						
e	意見や要望への対応については	48.7%	30.8%	7.7%	2.6%	10.3%	0.0%
	その他: 事例がない。						

問8 保育園の総合的評価

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
a	総合満足度は	48.7%	43.6%	5.1%	2.6%	0.0%	0.0%

利用者本人調査

結果の特徴

【調査方法】

実施日：平成22年12月14日、22日

保育観察：調査員2名で、園児全員の「遊び」「食事」「午睡」「環境」等の保育観察をしました。

本人聞き取り調査：利用者本人調査は、保育園に依頼した5～6歳児6名に行いました。

【利用者本人調査の結果】

全体のコメント

(1～2歳児クラス)

1～2歳児が一緒に過ごしています。当日は雨天のため、みんな室内で遊んでいます。静かに絵本を見ている子、お人形を抱いている子など、数人のグループになって過ごしています。保育士の目も行き届き、泣いてしまう子にはすぐに対応しやさしく抱いてあげています。食事では、初めは手づかみで食べ始める子もいますが、見守って少したってから自然な形でスプーンを与えています。「ブロックリーだよ。おいしいよ」と言いながら食べる子、黙々と食べる子など、いろいろです。なかなか食の進まない子どもには、タイミングを見て口に入れて食べさせていました。午睡の前にみんなでトイレに行きます。わらべ歌を歌いながら、ゆっくりと順番を守りながらトイレを使用していました。

(3歳～5歳児クラス)

雨が上がった園庭に一齐活動が終わった子ども達が一人ひとり飛び出してきます。まっすぐにタイヤを転がして遊ぶ子、東屋でままごと遊びに夢中になる子、築山に登りロープをにぎり、一気に駆け下りるなど、腕を使った遊びなど全身を使ってみんな夢中で遊んでいます。小さな築山ですが、子ども達は皆ルールを守り順番に並んでいます。保育士は危なくないように見守っています。給食の時間になりました。魚の形のアルミホイルの中の白身魚に野菜がかけられています。ほとんどの子どもはよく食べていますが、ほとんど手をつけていない子どもに保育士が、「○○くん、お魚は好きでしょう。お魚は下にあるのよ」と野菜の下をお箸であけて見せていました。みんな静かに食事をしています。

〔質問項目別の特徴〕

<遊びについて>

「園庭でのタイヤ転がしや東屋でのおうちごっこ、鉄棒などが楽しい」「保育室では、ブロックやパンタごっこ、おもちゃで遊ぶのが楽しい」と答えています。「散歩では、奈良山公園で遊んだり、どんぐりや葉っぱを拾って遊ぶのが楽しい」と答えています。

<食事について>

「全部食べられたらお代わりする」「おかわりできるけど言わない」「食べられないなあと思った時は先生に言って少なくしてもらおう」と答えています。

<排泄について>

「散歩の前と昼寝の前は、先生に行きなさいと言われるので行く」「訓練の時は行ってはいけない」「赤ちゃんが寝ている時は起こさないように、そ〜っと行く」と答えています

<清潔・健康について>

「外で遊んで汚れた時は足を洗ってから入る」「体は拭いてもらったり、夏はシャワーで洗ってもらおう」「汚れたものは洋服入れに入れて、お家で洗ってもらおう」「けがをした時は園長先生の部屋でバンドエイドを貼ってもらおう」と答えています。熱がでた時は、計ってもらったり、冷やしてもらった。いつもより優しくしてくれた」と答えています。

<権利について>

「眠くない時は寝なくてもいいけど、おとなしくしている。布団の中でゴロゴロしている」と答えています

<職員について>

「みんな先生は優しい」と答えています。「園長先生は忙しい。ハンコを押している」「他の先生とはお部屋でもおちゃで遊んだり、ジャングルジムで見えてくれる」と話しています。

事業者からの意見

第三者評価を受審にあたり、職種の違い、常勤・非常勤を問わず、全職員で、検討、確認を行いました。保育の振り返り、見直しをおこないながら、文章化していくことで、共通認識を持つことができ、職員の意識の向上につながる良い機会となりました。また、マニュアルの再確認、環境の改善など保育の質の向上に向けた取り組みの道筋ができたことも大きな成果でした。

評価結果では、子どもの意欲を引き出す環境づくりや地域の子育て支援など日々努力してきたことを認めていただき、職員の意欲につながりました。課題及び改善点につきましては、明確で解りやすい方法を検討し、実行してまいります。また、今回の第三者評価受審を機に、定期的な自己評価により課題を見出し、改善していく取り組みを継続していきたいと考えております。

今後も子どもたち一人ひとりの個性を大切にし、子どもも大人も育ちあっている保育園を目指し、保護者・地域の方の子育ての良きパートナーとなれるよう努めてまいります。